

第13回 (1997年度) 地質調査所研究講演会のお知らせ

「生活と地質」—首都圏とその周辺—

プログラム

- 日時/平成9年11月14日(金) 10:00開場(10:15開演)
- 会場/三会堂ビル9階 石垣記念ホール  
〒107東京都港区赤坂1-9-13 TEL 03-3582-7451  
(地下鉄銀座線虎ノ門駅下車徒歩5分)  
(地下鉄丸ノ内線・千代田線国会議事堂前駅下車徒歩7分)
- 主催/工業技術院地質調査所  
(財)日本産業技術振興協会

●開催にあたって  
首都圏を含む関東平野には、構造盆地であるが故に、活断層が伏在する厚い堆積層が分布し、広い沖積低地とそれをとりまく台地・丘陵から成り立っています。この平野は、私達に生活の場及び恵みを提供している一方甚大な被害を与えることもあります。この講演会では、この平野の成り立ちと地質災害との関連について易しく解説し、この平野との共生の道を探ります。

- 参加費：聴講無料(ただし、一般参加者はテキスト代2,600円)
- 申込方法：講演会名と参加者の氏名・所属等をご記入の上、申込先へお送り下さい。FAXでの申込もお受けいたします。なお、聴講券は発行しませんので、申込済みの方は当日会場へ直接おいで下さい。

- 申込先：(財)日本産業技術振興協会  
〒105 東京都港区虎ノ門1-19-5  
虎ノ門1丁目森ビル5階  
TEL 03-3591-6272 FAX 03-3592-1368

- 問い合わせ先：  
工業技術院地質調査所総務部業務課広報係  
〒305 茨城県つくば市東1-1-3  
TEL 0298-54-3520 FAX 0298-54-3504  
インターネット <http://www.gsj.go.jp/HomePageJP.html>

- 午前の部
- 10:00 < 開 場 >  
(司会 地質調査所統括研究調査官 有田正史)
- 10:15-10:20 開会の挨拶  
地質調査所長 小玉 喜三郎
- 10:20-11:00 関東平野の地質環境と人々の生活  
—筑波台地と三浦半島を例に—  
地質調査所北海道支所長 磯部一洋  
関東平野には、4千万人に近い多数の人々が生活しているが、それを可能にしたのは、我が国最大規模の平野と多数の河川などの恵まれた地質環境である。関東平野は大きな盆地状の形態をなし、平野の中心に近い筑波台地とその外側に当たる三浦半島を例に、平野の成り立ちと人々の生活との係わり方を紹介する。
- 11:00-11:40 関東平野とその周辺の活断層  
地質調査所地震地質部 水野清秀ほか  
首都圏周辺では、関東山地の北～東縁と相模湾を取り囲む地域に比較的多くの活断層が分布し、特に後者の地域に活動性の高い活断層が多い。その代表の国府津—松田断層の活動履歴調査により、同断層は約3千年前に活動し、将来マグニチュード7.5以上の地震を引き起こす可能性があることが分かった。
- 11:40-12:20 地震災害と関東平野の地下地質  
—被害予測とその問題点—  
地質調査所環境地質部 遠藤秀典  
地震災害では、地質や地下水などの地下の条件によって、被害が集中することがある。そのような地盤災害のうち、地震動分布と液状化被害の予測について、関東大震災をはじめとする地震災害の事例に基づいて検討する。また、関東平野中央部の地下地質調査の経過と現状について紹介する。
- 12:20-13:30 < 休 憩 >

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

午後の部

(司会 地質調査所地質情報センター 長谷川 功)

13:30-14:30 {特別講演}

沖積河川の河道特性と沖積地地形の形成  
建設省土木研究所研究調整官 山本晃一

氾濫のおそれのある沖積地に、我が国の人口の約半分、資産の3/4が存在している。このように人々の生活に密接に関係している河川の種々の特徴(河道特性)や沖積地形成については案外知られていること、また一般の常識と異なった所が多々あります。ここでは、沖積河川の特徴について、それを規定する要因は何か、また沖積地の形成機構についてのシュミレーション結果について報告する。

14:30-15:10 首都圏の地下水流動

地質調査所環境地質部 丸井敦尚

地質調査所では、漏水対策・環境問題等を考慮に入れて「全国版井戸・水文DB “いどじびき”」を作成している。この“いどじびき”から首都圏をピックアップして、地下水の現状紹介をするとともに、地下資源の1つである地下水が抱えている問題(汚染・地盤沈下等)を提起し、地下水という視点から「我々の生活」との関連を考える。

15:10-15:30 < 休 憩 >

15:30-16:20 {特別講演}

首都圏の斜面災害—予測される災害のタイプと場所—

日本大学理工学部土木工学科 釜井俊孝

最近、都市とその近郊において深刻な斜面災害が発生している。こうした事態の背景には、土地利用計画・都市計画に地盤情報が有効に活用されていないという問題がある。そこで、今回は、都市における斜面変動の特徴を整理し、地盤情報を加工し、利用する手法について提案するとともに、首都圏における斜面災害予測図作成の意義と戦略について述べる。

16:20-16:40 総合討論

16:40-16:45 閉会の挨拶

地質調査所次長 津 宏治

ポスターセッション

10:00-16:20

○「斜面災害緊急調査報告」

—秋田県澄川地すべり・岩屑なだれ、鹿児島県出水市斜面崩壊・土石流、北海道第2白糸トンネル岩盤崩落—

地質調査所環境地質部 遠藤秀典ほか

今年も日本各地で多くの斜面災害が生じた。それらについて地質調査所が実施した緊急調査の結果を速報として紹介する。

秋田焼山の北東側山麓澄川温泉付近では水蒸気爆発を伴う地すべりが発生し、その土砂は岩屑なだれとなって高速で谷を流下した。それらの堆積物等の状況、水蒸気爆発噴出物の構成、関連する温泉水等の緊急調査結果及び一連の現象の発生プロセスを映像記録等に基づいて検討した結果を報告する。

また、鹿児島県出水市の針原川では斜面崩壊が生じ、その土砂は土石流となって下流の扇状地上の集落を襲った。この災害の周辺域を含めた地質及び水文に関する緊急調査結果を報告する。

さらに、北海道の国道229号沿いでは、昨年の豊浜トンネルに引き続いて第2白糸トンネル付近で岩盤崩落が発生した。この緊急調査結果を報告し、亀裂性岩盤の崩落の状況と防止対策の問題点について指摘する。

○「講演補足ポスター」

講演会で使用する資料等を、ポスターとして展示します。

\*\*\*\*\*